

## 9. ワールドカフェによる多職種連携へのアプローチ

### ～長野県薬剤師会の取り組みについて～

角間英子、高田弘子、日野寛明（一般社団法人長野県薬剤師会）

キーワード：ワールドカフェ、多職種連携、在宅医療、地域薬剤師会

**要旨：**長野県薬剤師会では、「地域医療介護総合確保基金」により、平成26年度より「薬剤師を活用した在宅医療推進のための研修会事業」を行ってきた。平成27年度には各地域の代表により県域で、平成28年度には各地域薬剤師会においてワールドカフェ形式の研修会を開催し、他職種との連携強化を図った。平成28年度は県内13地域薬剤師会にて計16回の研修会を開催し、参加者数は薬剤師延べ258名、在宅医療関連職種延べ407名であった。アンケートの結果から、本研修会は他職種と顔の見える関係構築の一助となり、在宅医療における薬剤師の役割に対する他職種の理解を深めることができたことが示された。

#### A. 目的

長寿日本一を誇る長野県の高齢化率は30%を超え、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、医療・介護サービスの提供体制整備は喫緊の課題である。長野県薬剤師会では多職種連携の基盤構築を目的として、「地域医療介護総合確保基金」を活用し、平成27年度に地域薬剤師会の在宅医療担当者と多職種の代表による県域におけるワールドカフェ形式を用いた研修会を開催した。多職種連携の基本は地域にあると考え、平成28年度には各地域薬剤師会においてワールドカフェ形式の研修会を開催し、他職種との連携強化を図ったので報告する。

#### B. 方法

ワールドカフェとは、カフェのようなリラックスした空間で少人数討議を繰り返す話し合いの一種の形式である。1グループは4～5人を基本とし、自由な雰囲気の中、初めて会った人とも明るく前向きに話すことができ、結論を出すことは目的としない。本事業実施にあたり、地域薬剤師会在宅医療担当者を対象に事業説明会を開催、模擬ワールドカフェを行い、運営方法等を確認した。各担当者には地域研修会開催要項（提供用資料パッケージ）を配布し、開催に必要な文書、スライド資料、受講者アンケートの様式等を提供した。各地域においては、各団体に事業の説明を行い、地域の在宅医療に関わる各職種（医師、歯科医師、訪問看護師、介護支援専門員、介護福祉士等）に働きかけて参加を依頼した。地域の実情に応じて開催日、開催時間を設定し、ワールドカフェ形式の多職種連携研修会を開催した。その後、地域薬剤師会から実施報告書を集集し、県薬剤師会において集計、解析を行った。その結果を受けて平成29年3月、地域薬剤師会在宅医療担当者を対象に事業報告会を開催し情報の共有を

行った。

〈研修会用提供資料〉

様式1：在宅医療関係職種等あて開催通知雛形  
様式2：研修会基本プログラム  
様式3：ワールドカフェ進行説明用パワーポイント資料  
様式4：参加者アンケート  
様式5：地域薬剤師会報告書  
様式6：在宅医療関係職種あて礼状雛形  
参考資料①：ワールドカフェ研修会準備品一覧  
参考資料②：介護保険関係窓口（関係職種窓口）

〈ワールドカフェ研修会基本プログラム〉

(5分) 開会あいさつ  
(10分) ワールドカフェの概要説明  
(25分) 第1ラウンド  
「在宅医療で困ったこと」  
(5分) 移動（名札に標記されたグループへ）  
(25分) 第2ラウンド  
「在宅医療と薬剤師について思うこと」  
(5分) 移動（第1ラウンドのグループに戻る）  
(25分) 第3ラウンド  
「理想の在宅医療」  
(30分) まとめ  
(5分) 総括  
閉会

#### C. 結果

県内13地域薬剤師会にて計16回の研修会を開催し、参加者数は薬剤師延べ258名、在宅医療関連職種延べ407名であった。討議テーマは、「第1ラウンド：在宅医療で困っていること」「第2ラウンド：在宅医療と薬剤師について思うこと」「第3ラウンド：理想の在宅医療」としたが、各地域の実情に応じて変更も可とした。例としてすでに開催経験のある佐久地域では「他職種の職能を知ろう」「他職種の希望」というテー

マで行った。参加職種は医師、歯科医師、訪問看護師、介護支援専門員、介護福祉士、保健師、社会福祉士、理学療法士、地域包括センター職員、MSW等多岐に渡り、職種の配分は地域により様々であるが、例えば木曽地域においては、薬剤師7名、他職種18名（ケアマネ4、訪問看護師3、支援員2、介護員6、生活指導員1、介護予防運動指導員1、ボランティアコーディネーター1）であった。進行役は薬剤師が務め、職種の垣根を取り払って、在宅現場の困り事、続いて在宅医療と薬剤師について話し合った。その中で代表的な意見として、「在宅現場には多くの残薬がある」「正しく服用できていないことがある」「重複や相互作用のチェックのためにお薬手帳は大切」「薬剤師の印象が変わり、薬の専門家であり、薬に対し責任を持っていることがわかったのもっと情報共有し相談したい」「患者さんを支えるために、それぞれの専門性を活かして連携することが大切」などがあつた。

アンケートは参加者291人（薬剤師158人・他職種133人）から回答を得た。有効回答のうち、研修会は「有用だった」「まあ有用だった」と答えた方は285人（100.0%）、本研修会は今後の在宅医療業務に「活用できる」「まあ活用できる」と答えた方は283人（97.6%）、今後も多職種連携研修会の開催を希望すると答えた方は275人（96.8%）であった。参加者からは「和やかなムードの中、他職種の仕事内容・状況が学習でき、有意義な意見交換ができた」「在宅訪問における薬剤師の仕事内容が理解できた」「今日のような顔の見える研修会が連携構築の第1歩だと思った」「今後も継続してほしい」といった意見が寄せられた。

〈参加者アンケート結果〉

Q1. 本日の研修会は有用でしたか？

	有用	まあ有用	あまり有用でない	有用でない	不明
薬剤師	139	19	0	0	0
他職種	85	42	0	0	0
計	224 (78.6%)	61 (21.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

他職種未回答6名

Q2. 今後の在宅医療業務に活用できると思いますか？

	できる	まあできる	あまりできない	できない	不明
薬剤師	117	38	2	0	0
他職種	75	53	2	0	3
計	192 (66.2%)	91 (31.4%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	3 (1.0%)

薬剤師未回答1名

Q3. 今後も多職種連携研修会の開催を希望しますか？

	希望する	希望しない	わからない
薬剤師	152	3	0
他職種	123	2	4
計	275 (66.2%)	5 (31.4%)	4 (1.4%)

薬剤師未回答3名、他職種未回答4名

H29年3月に地域薬剤師会在宅医療担当者を対象に行つた事業報告会において、多職種連携研修会を開催しての感想や今後の地域における多職種連携への活用を尋ねたところ、「多職種が患者のためにどのように助け合つて行くかなどの意気込みがとても感じられた」「参加者全員から、継続的な研修会開催の要望が寄せられたので、定期的に開催していきたい」「ワールドカフェ形式は、参加者の主体性をもって積極的に会話に参加することで、モチベーションの向上にも繋がっていくように感じる」等の意見が寄せられた。

#### D. 考察

この研修会を全県で実施できた要因には、県薬剤師会での事前研修会や提供用資料パッケージによるところが大きいのと思われる。その結果、各地域で積極的に研修会開催に取り組むことができ、多くの地域で様々な職種が参加する研修会を開催することができた。本事業は他職種と顔の見える関係構築の一助となり、また、在宅医療における薬剤師の役割に対する他職種の理解を深めることができた。この研修事業で築いた連携関係を維持するため、長野県薬剤師会として、地域が継続的に研修を実施していくためのサポート方法等について検討が必要である。

#### E. まとめ

多職種での相互理解を深めるためには、地域における継続的な取り組みが必要である。そのためのツールとして、ワールドカフェは大変有用であると考えられる。また、在宅医療において薬に関する問題が多く存在することが明らかになったことから、その解決に向けて更なる薬剤師の積極的な姿勢が求められる。

#### F. 利益相反

利益相反なし